

令和4年度「大学生の力を活用した集落復興支援事業」 実証活動報告書

- 実施者：前橋工科大学建築学科 都市・地域計画研究室
参加者：鈴木、坂野、谷口、前田、吉田（学生5名）、辛島（指導教員1名）

- 受入集落：二本松市竹ノ内集落

■活動概要

昨年度の成果¹⁾を踏まえ、大きくは以下の3点の活動を実施した。

- 1) 集落の程度の良い空き家の活用（サテライトオフィス、ワーケーション、交流施設など）を促進するため、空き家活用の提案を行った。また、実現に向けて、改修のための基本図面の作成、運営体制・資金計画の提案を実施した。
- 2) 地域に広範囲に拡がってしまい景観にも影響を与えている竹の活用アイデアを検討し、安達太良山を眺めることができる高台に設置できる休憩所を提案した。地域の方、小学校の児童などを巻き込み実際に作成した。
- 3) 竹ノ内集落が位置する東和地域の特色である農家民宿の宿泊者増加による交流人口増加の促進のため、農家民宿の運営・利用実態調査を行った。

参考文献

- 1) 福島県 HP, 大学生の力を活用した集落復興支援事業 調査研究報告書・実証活動報告書について、
<https://www.pref.fukushima.lg.jp/uploaded/attachment/501251.pdf>（アクセス日：2023.02.28）

■ 活動スケジュール

4月～8月

- ・ オンライン打ち合わせ
- ・ 事例調査
- ・ 提案・ワークショップ（WS）準備

8/26（金） 前橋から移動 竹ノ内集落に到着 打ち合わせ（竹伐採場所・方法の確認） 宿泊

8/27（土） ①竹を活用したプロダクト作成 ②の準備・プレWS 宿泊

8/28（日） ②空き家活用WS 竹プロダクト体験 解散

10月～12月

- ・ 提案修正、情報整理
- ・ オンライン打ち合わせ
- ・ 農家民宿の運営利用実態調査

2023年1月～2月

- ・ 報告書作成、発表会参加

■活動詳細

1) 昨年度の活動で把握した活用可能な空き家（写真1）について、集落活性化の拠点としての活用方法を検討するための調査、提案、WSを実施した。8/27のみしか参加できない方と意見交換するため、プレの空き家活用案検討WSを実施した。翌日、写真2のように本番の空き家活用案検討WSを実施した。その結果、図1のように意見を集約し、図2のように活用案を平面図に整理した。



写真1 対象の空き家



写真2 WSの様子

空き家の利活用案（現地ワークショップ後整理）

地域の交流・活性化拠点

- ・農業とcafeなどを紐づけ、地産地消につなげ来訪者に現地を知ってもらうのはどうか。
- ・集落の魅力を生かすために、季節の食材を使った貸しレストランなどが良いのではないか。
- ・地域のリビングで地域の人同士がラフな話合いができることが望ましい。

ものづくり工房

- ・工房で竹細工だけでなく、陶芸などもおこない隣のギャラリーにおいてはどうか。
- ・共同スペースに普段使わない道具や機械があると訪れる理由になる。

空き蔵の活用

- ・蔵のシアター利用は書庫と併用ができるのではないか。

その他全体の活用意見

- ・現地だけのコミュニティだけでなく、経済活動につながるような要素が望ましい。
- ・農業をしている人が日々楽しめる要素が欲しい。
- ・維持費などをいかなる収益で補うのか。
- ・維持管理はどのような仕組みで行うか。
- ・東和地区だけでなく、周辺の地域にも広がっていく活動にしてはどうか。
- ・初めから空き家全体を改修するのではなく、部屋ごとに徐々に進めていくことでハードルが下がるのではないか。
- ・空き家にはかび臭いイメージがあるため、竹炭などを利用してみてはどうか。

図1 WSでの意見交換の整理

空き家の利活用案（現地ワークショップ後整理）

コンセプト：モノづくりもできる地域の交流拠点としての提案

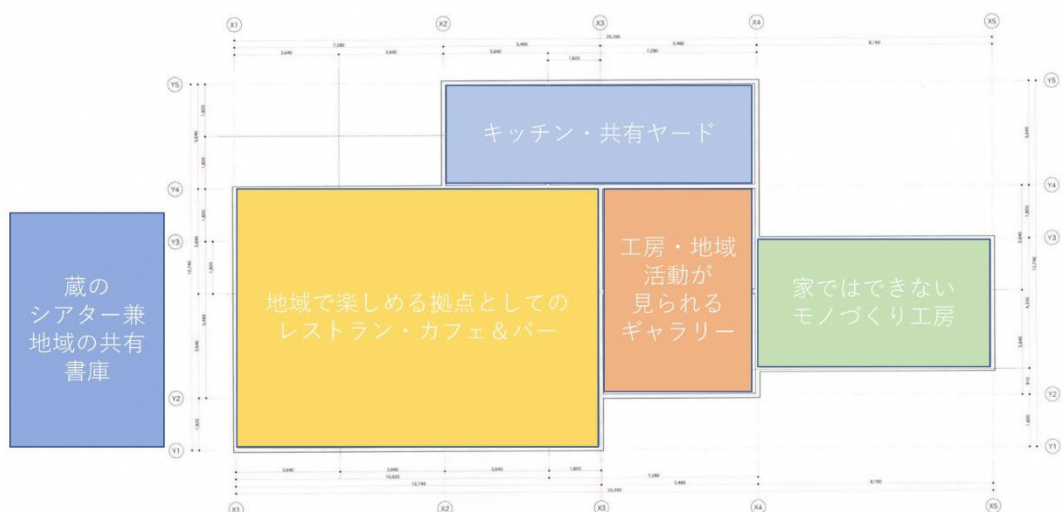


図2 空き家活用案

2) 多くの地域の方にご協力いただき、竹が繁茂する場所から伐採することから始めた(写真3)。その後、竹を加工し、安達太良山を望める高台に設置できる休憩スペースを作成した(写真4)。並行して、地域の方が主体的にベンチを作成した。地域の子供たちにも竹の問題に関心を持ってもらえるよう、和手を使った工作WSも実施した(写真5)。地域で竹細工づくりに取り組む方にご協力いただき、水鉄砲や竹トンボ(虫よけ鬼やんま)が作成された(写真6)。適宜、休憩所づくりに参加された。



写真3 竹の伐採



写真4 竹の休憩所とベンチ



写真5 竹の工作WS



写真6 竹トンボ

3) 特定非営利活動法人、ゆうきの里東和ふるさとづくり協議会の石井様、熊谷様にご協力いただき、農家民泊の運営や利用実態、課題などについてヒアリングを実施した。

■まとめ

昨年度の活動成果を踏まえ、2022年度は、1) 集落の程度の良い空き家の活用提案、2) 竹の活用アイデア検討及び実物作成(安達太良山を眺めることができる高台に設置できる休憩所)、3) 農家民泊の運営・利用実態調査、以上3点を行った。

今後の活動として、今年度の活動成果を組み込んだ空き家活用の実践に取り組む。それにより空き家活用の計画を具体化し、より効果的な計画・実践につなげる。